

豊橋上下水道 工事業協同組合 石川県七尾市へ見舞金届ける

豊橋上下水道工事業協同組合(森田桂史理事長)は、能登半島地震の被災地、石川県七尾市を訪れ、見舞金38万2200円を届けた。

同組合は、豊橋市上下水道局の指定を受けた上下水道工事店づくり、正組合員40社、準組合員28社。能登半島地震では、同局の要請に基づき、1月22日から2月29日まで七尾市の被災した水道管の復旧作業にあたった。これが縁で見舞

金を送ることになった。見舞金は、組合員68社と管材卸業者6社、事務局職員が賛同。3月26日、森田理事長や守田保之副理事長ら6人が七尾市役所を訪れ、七尾市管工事組合の室塚宏一組合長同席のもと、茶谷義隆市長に手渡した。

同組合によると、復旧作業は一班5人体制、1週間交代で水道本管の漏水調査と復旧を実施した。

復旧材料の調達に苦心し、降雪や降雨の影響でより厳しい作

業を強いられた。掘削作業では、地下水位が高く、堀山が崩落するなど苦労したという。(中村晋也)



見舞金の贈呈。右から森田理事長、茶谷市長、室塚組合長(七尾市役所で) =提供